

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02760

研究課題名（和文）読解（絵を読む）と文化理解にシフトした西洋絵画鑑賞指導メソッドの構築と題材開発

研究課題名（英文）Constructing the method of teaching Western painting appreciation shifted to art reading (objects are paintings) and cultural understanding, and developing learning contents

研究代表者

岡田 匡史（Okada, Masashi）

信州大学・学術研究院教育学系・特任教授

研究者番号：30194369

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：第1～3期は読解的鑑賞研究を理論・実践両面で進め、ヴェロネーゼ「カナの婚宴」、シモーネ・マルティニーニ「受胎告知」、ドメニコ・ギルランダイオ「羊飼いの礼拝」、レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」他多数の鑑賞題材を開発し、単独鑑賞、比較鑑賞、画中画で諸作繋ぐ内部連環型鑑賞、歌唱・演奏を画題化した絵を扱う美術・音楽2科連携型鑑賞、身体的鑑賞（ロール・プレイ）、疑問媒介型鑑賞等、読解ベース型鑑賞指導メソッド複数提起し、基盤となる学習モデル（7段階・10段階・二部構成）も考案した。第4期は業績公開に到れなかったが、西洋絵画に長瀬校「想画」を組み込む読解的鑑賞を準備する基礎研究に専心した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

読解的鑑賞は日本の学習者が西洋文化に習熟する一方略となり得る。理由は西洋絵画が西洋圏の文化・伝統・習俗・信仰観等を凝縮するからである。これを組織する指導メソッド・学習モデル・題材を一部授業検証も実施し提起できたことの学術的・社会的意義は高い。主要構成要素は5つ在り、[1]観察と言語化、[2]自由解釈と発表、[3]作品解説（絵画史）の学び、[4]図像学的解読、[5]文献準拠型理解で、観る・解す・語り合う・調べる・知ると要約でき、これらの調和的配合例を示せた点も有意義と考える。さらに長瀬校「想画」を日本・西洋を懸橋する媒体として組み込む読解的鑑賞の研究も意義高いと判断し、その熟成を継続したい。

研究成果の概要（英文）：During the 1st to 3rd term, I carried out reading-based appreciation research both theoretically and practically. I developed many learning contents, including Veronese's "The Wedding Feast at Cana", Simone Martini's "Annunciation", Domenico Ghirlandaio's "Adoration of the Shepherds", and Leonardo da Vinci's "The Last Supper" and others. In addition, I offered instruction methods such as independent appreciation, comparative appreciation, internally linked appreciation that connects various works by paintings within paintings, art and music collaborative appreciation of paintings depicting singing or musical performances, physical appreciation (role play), question-mediated appreciation, and also devised basic learning models (7 stages, 10 stages, two-part structure). In the fourth term, although my achievements could not be made public, I conducted basic research to prepare reading-based appreciation that incorporates Nagatoro School's "Souga" into Western paintings.

研究分野：鑑賞教育

キーワード：知識・読解・読解的鑑賞 西洋絵画による西洋文化理解 画中画を使う内部連環型鑑賞 美術・音楽横断型鑑賞 ロール・プレイ（身体的読解） 自由解釈・作品解説の二部構成 疑問媒介型鑑賞 長瀬校「想画」・西洋絵画の連結型鑑賞

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

令和3年度、全面実施となった平成29年版『中学校学習指導要領』の第2章各教科第6節美術〔第2学年及び第3学年〕B鑑賞(1)イ(イ)に、「日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。」との一文が載る。記述順より日本美術を扱う前半部に指導的力点が置かれるとの一般認識を持ったが、本研究で重視した箇所は「美術を通じた国際理解」なる言葉が登場する寧ろ後半部であり、端的に言うと、「西洋絵画を通じた西洋文化理解」を本研究の中核的テーマとした。

が、当時(現在もだが)勢いを持つのは前半部と関わる指導動向で、管見の限りだが、西洋絵画を真正面に据え、次の5要素、即ち、[1]観察と言語化、[2]自由解釈と発表、[3]作品解説(絵画史)の学び、[4]図像学的解説、[5]文献準拠型理解を組み入れた正攻法の鑑賞教育を目標に掲げる論述及び授業実践報告は近年日本では僅少と言わざるを得なかった。こうした背景の中、要は「観る・解す・語り合う・調べる・知る」の連携的深化を目指す鑑賞教育を、約めて言うなら「読む」を最重視する鑑賞教育として把握し、これを「読解的鑑賞」と称し、その多角的研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究を進めるに際し、PISA型読解観を参照し、西洋絵画の読解的鑑賞を次のようなイメージで捉えた。「画面を観察し、そこから多様な情報・意味・メッセージを抽出し、それらに関連付け、さらに既得の知識、また、新たに得た知識とも結び付け、総合的に解釈する鑑賞行為(最終的に批評を導く)。」その習熟を促し得る、絵を観ることに留まらず絵を精緻に読むことをも可能とする読解ベース型鑑賞指導メソッドを各種練り、その器となる有益な学習モデルを考案し、読む愉しみの視座より厳選した西洋絵画を鑑賞対象とする題材多数を開発することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

読解的鑑賞研究の理論編を成す題材開発段階では、日本の学習者(主に中学生と大学生)が絵を読むことを愉しむつつ西洋文化の重層的理解を達成できそうな西洋絵画複数を選定し、個々表現特性に適した指導メソッドを練り、読解的鑑賞を効果的に組織し得る学習モデルを検討した。その実践編として、中学生と大学生を主対象とする題材検証機会を設け、研究者自身による指導実践を通じ開発題材の分析を重ねた。前者では信州大学教育学部附属松本中学校第2学年(以下、松本附中と略記)で鑑賞授業を3度実施し、後者では信州大学共通教育科目<芸術教養美術ゼミ(以下、美ゼと略記)>、信州大学教育学部<図画工作科指導法基礎A/C(以下、図指基[信]と略記)>及び<美術科指導法基礎(以下、美指基と略記)>、松本大学教育学部<初等図画工作科指導法(以下、初図指[松]と略記)>で読解的鑑賞を主眼とした鑑賞関係講義(含授業検証)を行った(授業成果の研究利用は、松本附中美術科教諭と管理職、及び、各授業受講者より許諾を得た)。さらに過去の口頭発表を基に授業検証を行う試みも積極的に継続した。

なお、第4期では、文化理解の観点から、平成29年版『中学校学習指導要領』に書かれた「(日本と[研究者補記])諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付く意義を認め、研究方法の局面を変え、日本の学習者が敷居が高いと感じがちな西洋絵画の世界に滑らかに入ってゆけるよう、日本美術に東西文化架橋の役割を与え、西洋絵画だけでなく西洋・日本の両絵画を組み合わせる新たな読解的鑑賞方略を模索した。その際、日本側から選んだのは日本絵画史上の名品ではなく、昭和初期に製作された長瀬尋常高等小学校(以下、長瀬校と略記)の「想画」とした。『山形県東根市有形文化財/長瀬小学校所蔵/想画展』(ひとミュージアム上野誠版画館/R5.5.8-31)(以下、想画展と略記)で本物に接した鑑賞体験が本着想の契機となり、次の2項目、[1]長瀬校「想画」が第1級の西洋絵画(特に歴史画[物語画]系譜)に匹敵し得る質を備える点の論証、[2]画題・描写対象・様式性・画面構成・技法等、諸側面で類縁性が認められる、ピーテル・ブリューゲル(父)「季節画」連作と長瀬校「想画」の二領野をジョイントする読解的鑑賞の構想に取り組み、[2]の一部を授業検証した。

4. 研究成果

西洋文化理解を主眼に置く、西洋絵画の読解的鑑賞を研究するに当たり、読解ベース型鑑賞指導メソッドの考案、学習モデルの構想、鑑賞題材の開発の基本3軸を設け、理論・実践両面の精緻な構築を目指したが、以下、期間順に纏めたように、その目標にほぼ達し得たとの感触を持っている。理論・実践は乖離しがちだが、理論編と実践編は併走関係でなく緊密に作用・還流し合う統合的關係性の内に位置付けようと努めた。

そこで、上記の研究枠組において選んだ主立った鑑賞対象(鑑賞用学習材)を列記し、それらをどう扱って読解的鑑賞研究を進展させたかを眼目とした研究成果について期間毎に概述する。

【第1期】[1]ヴェロネーゼ「カナの婚宴」(ルーヴル美術館蔵)：第57回大学美術教育学会(H30

年度開催)口頭発表を基に論文化(投稿)⇒その授業検証(松本附中[R2 年度])を踏まえた論文化(投稿)を続く 2 期継続(構想時の 7 段階学習モデルを実践時に二部構成へ更新)。**[2]**シモーネ・マルティエーニ「受胎告知」(ウフィツィ美術館蔵)：10 段階学習モデル後半部の構想を論文化(投稿)。**[3]**画中画による内部連環型読解的鑑賞の起点 3 作(『ロンドン・ナショナル・ギャラリー展』[国立西洋美術館/R2.6.18-10.18]出品作)として、ベラスケス「マルタとマリアの家のキリスト/台所風景」、フェルメール「ヴァージナルの前に座る若い女性」、エル・グレコ「神殿から商人を追い払うキリスト」：第 59 回大学美術教育学会(R2 年度開催)口頭発表(オンデマンド配信)。**[4]**演奏・歌唱を画題化した**{1}**初期ルネサンス及び**{2}**バロック両期 3 作ずつとして、**{1}**フーベルト&ヤン・ファン・エイク「ヘント祭壇画」〈合唱する天使達〉&〈奏楽する天使達〉(シント・バーフ大聖堂蔵)、フラ・アンジェリコ「聖母戴冠」(ウフィツィ美術館蔵)、ピエロ・デッラ・フランチェスカ「キリスト降誕」(ナショナル・ギャラリー[ロンドン]蔵)、**{2}**カラヴァッジョ「リュート弾き」(エルミターージュ美術館蔵)、ベラスケス「三人の楽士達」(ベルリン国立美術館蔵)、フェルメール「合奏」(イザベラ・スチュアート・ガードナー美術館蔵[盗難で現在所在不明])：第 43 回美術科教育学会(R2 年度開催)口頭発表(オンデマンド配信)。**[5]**カラヴァッジョ「聖パウロの改宗」(サンタ・マリア・デル・ポポロ聖堂チェラージ礼拝堂祭壇画)、ピーテル・ブリューゲル(父)「サウロの回心」(美術史美術館[ウィーン]蔵)：同主題を扱う西洋絵画 2 作をクローズアップ vs. ロングショットの基本枠組で比較鑑賞する開発題材の授業検証(松本附中[R2 年度])。

【第 2 期】**[1]**レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」(サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院食堂壁画)：美指基(R3 年度開講)の B 鑑賞講義の一環として試行した、距離を開け、画中人物 13 名を演じるソーシャルディスタンス版ロール・プレイを論文化(投稿)。**[2]**エル・グレコ「受胎告知」(大原美術館蔵)、フラ・アンジェリコ「受胎告知」(サン・マルコ修道院[美術館]壁画)：図指基[信]C(R2 年度開講)・図指基[信]A(R3 年度開講)で、受講者が 2 作を観て**{1}**観察&発見、**{2}**分析⇒解釈、**{3}**理由・根拠の 3 項目で応答(Zoom のチャット機能を活用)した内容を基に解釈傾向を分析。第 60 回大学美術教育学会(R3 年度開催)口頭発表(オンデマンド配信)。

【第 3 期】**[1]**ドメニコ・ギルランダイオ「羊飼いの礼拝」(サンタ・トリニタ聖堂サッセッティ礼拝堂祭壇画)：第 44 回美術科教育学会(R3 年度開催)口頭発表(Zoom)+美ゼ(R3 年度開講)で行った本作の自由解釈+作品解説を柱とした疑問媒介型読解的鑑賞を論文化(投稿)。**[2]**サンドロ・ボッティチェリ「聖母子(書物の聖母)」(ポルディ・ペッツォーリ美術館蔵)：図指基[信]A・初図指[松](共に R4 年度開講)で行った模擬的鑑賞学習における聖母子間の会話場面を手掛かりとした自由解釈の応答結果(Zoom 及び Teams のチャット機能を活用)、特に語句・文章を分析。第 61 回大学美術教育学会(R4 年度開催)口頭発表(オンデマンド配信)。**[3]**ハンス・メムリンク「聖ヨハネ祭壇画(右翼)」(メムリンク美術館[聖ヨハネ施療院]蔵)：美ゼ(R4 年度開講)で本作を扱う読解的鑑賞を自由解釈+作品解説(文献準拠)の二部構成で行う題材案(第 41 回美術科教育学会[H31 年度開催]口頭発表で提起した 8 段階学習モデルが原型)を授業検証。**[4]**カラヴァッジョ「エマオの晩餐」(ナショナル・ギャラリー[ロンドン]蔵)：図指基[信]C(R4 年度開講)で、対話型鑑賞導入部練習の位置付けで、**{1}**観察&発見、**{2}**分析⇒解釈、**{3}**理由・根拠の 3 項目への応答(Zoom のチャット機能を活用)を課し、本作の自由解釈の特質を分析。**[5]**ロベール・カンパン(所蔵館見解は工房作)「メローデ祭壇画」(メトロポリタン美術館クロイスターズ分館蔵)：第 36 回美術科教育学会(H25 年度開催)口頭発表の授業検証(松本附中[R4 年度])⇒最終講義(R5.3.25)「キリスト教絵画鑑賞の愉しみ」(Zoom+オンデマンド配信)。

【第 4 期】**[1]**長瀬校「想画」(山形県東根市立長瀬小学校が管理)、ピーテル・ブリューゲル(父)「季節画」連作(美術史美術館[ウィーン]外 2 館蔵)：『想画展』に組まれたシンポジウム「想画を考える」でのシンポジストとしての発表内容(ひとミュージアム上野誠版画館・想画展実行委員会『想画展 記録集』2024 年 2 月配布、pp.15-27.に収録)を土台に、研究報告 2 編、「長瀬校「想画」の作品論的観点からの検討—その読解的鑑賞を準備するための基礎的論考」と「長瀬校「想画」とピーテル・ブリューゲル(父)「季節画」I—本質的類縁性を基盤に二領野を接続する読解的鑑賞の提案」を纏め、2023 年 11 月 30 日、『信州大学教育学部研究論集』第 18 号に投稿。その後、2 度校閲結果が届き、指定期限(1 回目：2024 年 2 月 14 日/2 回目：同年 3 月 18 日)に修正原稿 2 編を管轄部署宛提出したが、2024 年 2 月末迄の受理とならなかったとの理由で、掲載は次号以降となる旨の事務連絡を得た。**[2]**ピーテル・ブリューゲル(父)「雪中の狩人」(美術史美術館[ウィーン]蔵)：初図指[松](R5 年度開講)で二部構成(自由解釈+作品解説)に組んだ読解的鑑賞案を授業検証(題材開発継続の上で参考となる知見多数を得た)。

最終的に、論文 5 件、研究報告 1 件、口頭発表 5 件の業績を達成し、これらを通じ読解的鑑賞に関する様々な研究成果を公開できた。

今後、鑑賞対象の種類をもっと増やし、その幅を一層広げながら、日本の学習者が西洋絵画を観ると共に読む面白さを実感できるような読解的鑑賞案を種々構想し、その中核に位置付く読解ベース型鑑賞指導メソッド・学習モデル・鑑賞題材を考え続けたい。文化理解を基柱に、第 4 期に着手した長瀬校「想画」と西洋絵画を緻密に結び付ける新たな読解的鑑賞形態の研究を初め、途次段階に未だ在る諸研究をも遂行し、論文・研究報告等に着実に纏めてゆきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 6件）

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 岡田匡史 | 4. 巻 第44号 |
| 2. 論文標題 ヴェロネーゼ「カナの婚宴(1562-63年)」の鑑賞を扱う授業検証に基づく読解的鑑賞の理論的整備 知識, 読解, 読解的鑑賞 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『美術教育学(美術科教育学会誌)』 | 6. 最初と最後の頁 97～112 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24455/aaej.44.0_97 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 岡田匡史 | 4. 巻 第55号 |
| 2. 論文標題 ドメニコ・ギルランダイオ「羊飼いの礼拝(1485年)」の自由解釈の分析とその疑問媒介型展開の提案 「芸術教養美術ゼミ」〔鑑賞教育入門 絵を読もう!〕を通じた読解的鑑賞の実践的論察 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『美術教育学研究(大学美術教育学会誌)』 | 6. 最初と最後の頁 65～72 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19008/uaesj.55.65 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 岡田匡史 | 4. 巻 第43号 |
| 2. 論文標題 ヴェロネーゼ「カナの婚宴(1562-63年)」の多角的読解を目指す絵画鑑賞題材の授業検証 観察・想像・ 解釈 と 理解 の2パートで構成する学習計画 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『美術教育学(美術科教育学会誌)』 | 6. 最初と最後の頁 69～83 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24455/aaej.43.0_69 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 岡田匡史 | 4. 巻 第54号 |
| 2. 論文標題 レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐(1495-98年)」のロール・プレイ 「美術科指導法基礎」でB鑑賞 を学ぶ一試行としての身体的読解法 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『美術教育学研究(大学美術教育学会誌)』 | 6. 最初と最後の頁 49～56 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19008/uaesj.54.49 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 岡田匡史 | 4. 巻 第53号 |
| 2. 論文標題 ヴェロナーゼ「カナの婚宴(1562-63年)」の読解的鑑賞 食事の絵の系譜からの題材提案(7段階学習モデル)と作品分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『美術教育学研究(大学美術教育学会誌)』 | 6. 最初と最後の頁 65～72 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19008/uaesj.53.65 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 岡田匡史 | 4. 巻 第15号 |
| 2. 論文標題 シモーネ・マルティニ「受胎告知(1333年)」の鑑賞学習 読解基調の10段階の学習モデルの提案(後半部の構築) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『信州大学教育学部研究論集』 | 6. 最初と最後の頁 113～132 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.50928/0002000010 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡田匡史 |
| 2. 発表標題 会場場面を連想・類推・感情移入源とする聖母子像の自由解釈 ボッティチェリ「聖母子(書物の聖母[1482-83年頃])」を学習材として |
| 3. 学会等名 第61回大学美術教育学会(宮崎大会 WEB開催/研究発表はオンデマンド配信) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡田匡史 |
| 2. 発表標題 「受胎告知」を読む オンラインでの鑑賞学習(自由解釈)の試み |
| 3. 学会等名 第60回大学美術教育学会(山形大会 WEB開催/研究発表はオンデマンド配信) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡田匡史 |
| 2. 発表標題 「芸術教養美術ゼミ」〔鑑賞教育入門 絵を読もう! 自由解釈 〕における受講者の読解傾向 ドメニコ・ギルランダイオ「羊飼いの礼拝(1485年)」の場合 |
| 3. 学会等名 第44回美術科教育学会(東京大会 WEB開催/Zoomに拠る口頭発表) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡田匡史 |
| 2. 発表標題 画中画を使う内部連環型読解的鑑賞の提案 《ロンドン・ナショナル・ギャラリー展》出品作を起点とする鑑賞授業構想に向けて |
| 3. 学会等名 第59回大学美術教育学会(宇都宮大会 WEB開催/研究発表はオンデマンド配信) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡田匡史 |
| 2. 発表標題 歌・器楽演奏の場面を描く西洋絵画の鑑賞 絵を聴く/教科横断的な視点からの音楽科との連携の一提案 |
| 3. 学会等名 第43回美術科教育学会(愛媛大会 WEB開催/研究発表はオンデマンド配信) |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
| | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|